

時代の変化に適応しながら発展

運送業も担っていた瓦問屋

自然エネルギーの利用促進ということで、屋根にソーラーパネルを設置する住宅が増加しています。こうした住宅は今後、ますます増えていくことでしょう。街の景観も変化していくことになるのですが、それでも瓦そのものがなくなることはないでしょう。

東大寺や法隆寺などの屋根に瓦が使われていることから、瓦は古くから使われてきました。ただし、一般庶民の住まいにも使われるようになったのは江戸時代からです。江戸の町などの大都市ではしばしば火災が発生したため、幕府が瓦を奨励しました。いまでいう防火対策です。名古屋城下でも、瓦葺き町家が軒を並べていました。その瓦は三河から運ばれてきました。

明治になると、瓦の需要が増大します。重量がある瓦を大量に運ぶため、船が利用されました。堀川沿いには瓦の運送業も兼ねた瓦問屋が何軒もつくられました。さらに瓦問屋は屋根葺職人の手配もするようになりました。明治33年には瓦問屋が集まって名古屋瓦商組合が設立されました。



瓦問屋と瓦葺き職人が合併

職人の集まりである名古屋瓦葺師組合も昭和初期には設立されていたようです。やがて舟運がトラックなどの陸上輸送に替わっていきます。職人が瓦を産地から直接購入することが可能になります。そこで瓦問屋でも、屋根葺工事を直接請負うようになっていきます。問屋業と屋根葺業との区分がなくなっていき、昭和20年代に名古屋瓦商組合と名古屋瓦葺師組合が合併し、名古屋瓦商工組合となりました。

屋根瓦には断熱、防水、防音、換気など優れた特徴がありますが、地震や台風などに対し、より丈夫な屋根とするため、次々と新しい瓦や施工技術が考えられています。屋根のソーラーパネルも普及しています。組合ではそうした新技術、あるいは経営面などの勉強会を不定期で実施しています。また、最近では石や煉瓦の代りに瓦を使った庭づくりもおこなわれています。そうした装飾瓦の開発や使い方などにも取り組んでいます。

DATA ■名古屋瓦商工組合

所在地：港区小碓2-217(有)伊藤瓦店内

- ・明治33年：名古屋瓦商組合を設立
- ・昭和初期：名古屋瓦葺師組合を設立
- ・昭和20年代：名古屋瓦商組合と名古屋瓦葺師組合が合併し名古屋瓦商工組合を設立
- ・平成19年：愛知県屋根葺技工組合と共に愛知県屋根工事業連合会を設立